

鶴川第一小学校改築基本計画概要

基本設計・実施設計の業務にあたっては、文部科学省小学校施設整備指針に基づいた計画とするとともに下記内容について留意し、基本設計を行う。

【基本方針】

○教育力の向上

教育力向上を目的として、多様な学習内容・形態に弾力的に対応するための多目的室を設置する。
さらに、児童の主体的な活動及び自らの意思で学習できる環境を整えるため、図書室とコンピューター室、調べ学習、自習スペースを一体化する。
また、ビオトープを中心とした自然体験活動を支える空間をつくる。

○環境への配慮及びランニングコストの縮減

ランニングコスト削減のため、出来るだけコンパクトな建物とするとともに、断熱や、日よけ、通風、雨水利用などに考慮して、光熱水費の削減を図り、鶴川第一小学校の特徴である湧き水を空調設備、スプリンクラー、ビオトープ等に利用するよう検討する。
また、太陽光発電等の再生可能エネルギーを採用する。

○防災機能の強化

災害時には避難所として使用される体育館については、トイレの充実、シャワー設備の設置、災害倉庫設置など避難所機能を強化した体育館とする。
また、校庭に外トイレを設置する。

【規模】

構造、面積、階数

校舎	RC4F一部2F	約7,700㎡
屋体	RC1F	約960㎡
給食棟	RC1F	約450㎡
プール棟	RC1F	約500㎡(工作物部分含む。)
合計		9610㎡

施設内容

普通教室 29(少人数学級、特別支援教室含む。)、音楽室 2、理科室 2、図工室 2、家庭科室
図書室 1、コンピューター室 1、多目的室 2、ランチルーム 1、管理諸室等

【特徴】

○仮設校舎を設置しない。また授業への影響を抑えた工事とする。

現在の校舎位置に建築を行うと仮設校舎が必要となる。
その規模としては5000㎡程度のもが必要となる。さらに仮設の給食室も必要となることから、運動場として使用できるスペースが無くなってしまう。
そこで、校舎を現在の西側(体育館側)に配置することにより、仮設校舎を建設せず、既存校舎を利用して改築を行う。
また、新しい校舎を建築してから古い校舎を解体し、そこに新しい体育館を建設するなどの方法により、授業への影響を軽減する。ただし、工期は通常の倍の4年近くかかる。

○多様な学習形態に応じて使用できる空間の設置

本校は、学級数(推計で最大25クラス)が多いため、騒音の面で学習環境上支障が大きすぎると考えられる
そこで、従来のオープン型教室を採用せず、多様な学習形態に対応できるよう、まとまったスペースを必要に応じ区画して使用できるスペースを設ける。
このことにより、建築面積も削減でき、光熱費の削減もできる。